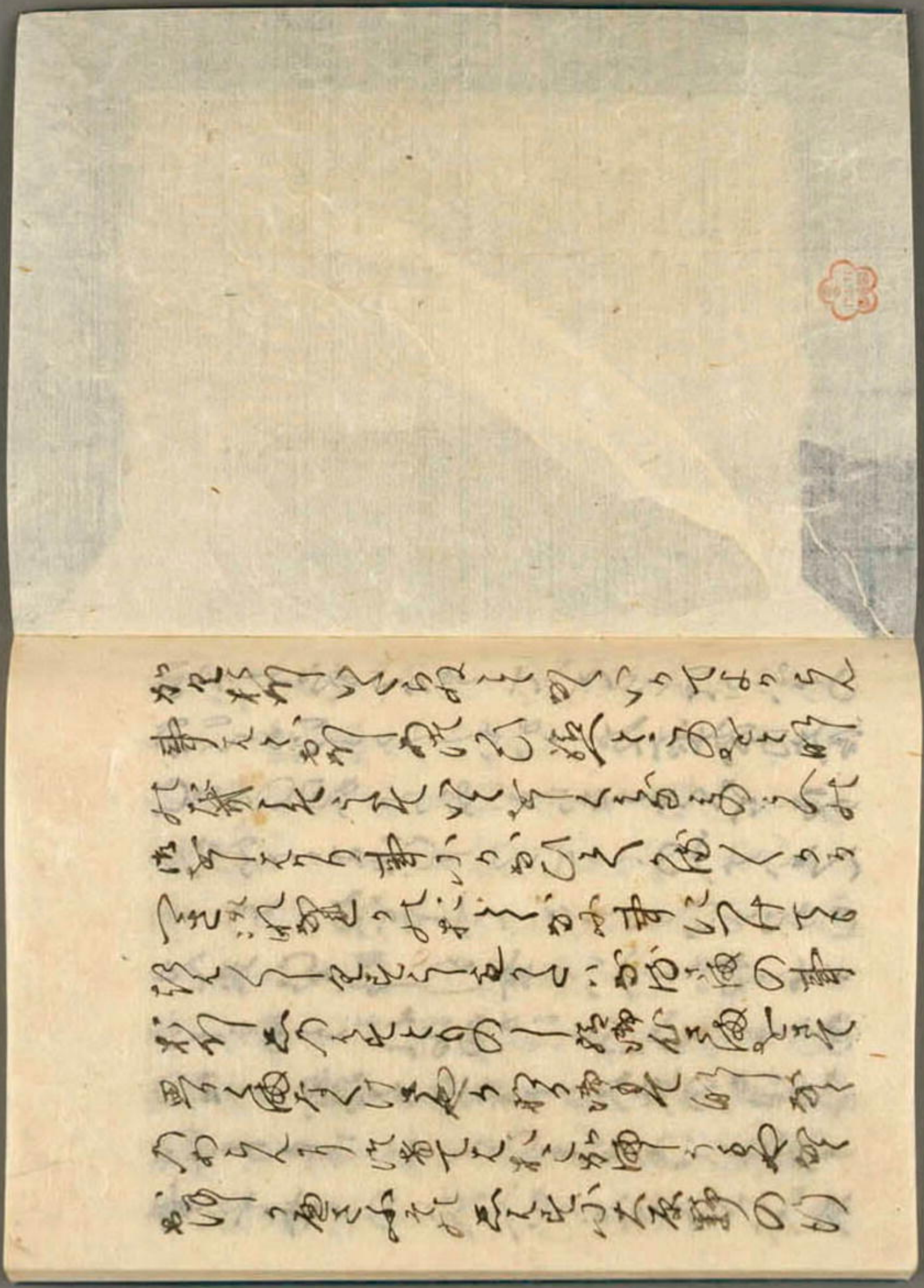
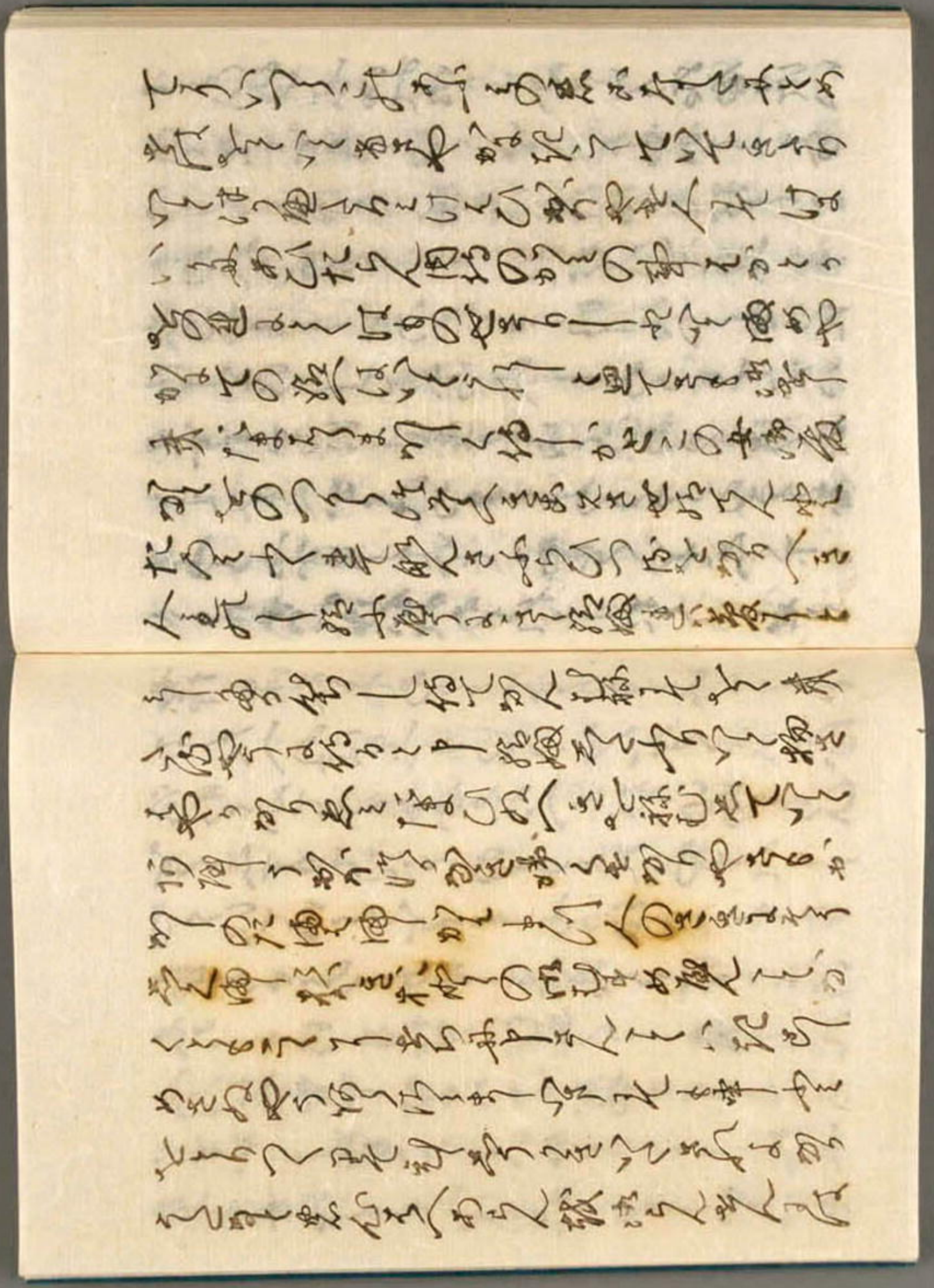
丹遊記

WA 7
263



さうしはらを給へてかほてもは宿し給ひ
日されは物いとのゝしりとそうせさせ給へ
はかりなり舞人の左右やんそうと御けしき
またし一枝めてたらせたまふ御かはせ
事にてまうやさやうのおりのことゝもまた
猶ふるまひけるなん
雪ふりさ埋はの山よりつきけり
老わともさらへる猶よ太政大臣のて
御野の行幸ありけるつかへさ給へるためし
かくやきこえんなれともはつるひとりしかり

よそ物さ世給
そしは山ゝ絶てつもまる杉けりふ
ありかりわやかくむそよるかひ給
きこえこのそくし思ひそらなくしひかす
まやうらん人の日おほしはりのたいふきのふ
う人はうたて時つらを給ひきやうの事はお
りかひ給らんやと給ひし給へりこのかは
給ふまうとけ給ひみこまりよりし給はと
てものゝねかおし家とみ給ひてあいかの
事やしまらひ給ふ物うらくとおきてう